

地域の皆さんに愛され、信頼され、期待に応えられる病院を目指します。

文京だより

一宮市立市民病院広報誌

2023

12

Vol.12

不整脈と脳塞栓症～脳梗塞予防の新しい治療



循環器内科
医長

うめもと のりお
梅本 紀夫

●日本内科学会認定医 ●日本循環器学会専門医 ●ICD/CRT-D 認定医

- ・2006年 豊橋市民病院 研修医
- ・2008年 愛知県立循環器呼吸器病センター 循環器内科
- ・2010年 一宮市立市民病院 循環器内科
- ・2012年 中津川市民病院 循環器内科
- ・2013年 名古屋共立病院 循環器内科
- ・2017年 一宮市立市民病院循環器内科 医長

不整脈と脳梗塞は一見関連のなさそうな二つの病気ですが、実は密接に関連しています。脳梗塞は不整脈を原因として生じることがあるからです。そのメカニズムと、脳梗塞予防のために行われている二つの治療法をご紹介します。

しんぼうさいどう
心房細動は代表的な不整脈のひとつで、心房（右心房・左心房）と呼ばれる部分が細かくふるえるような動きになります。脈拍が不規則となり、どうき動悸（胸がドキドキした感じ）を訴えられる方もいますが、症状がない方もいます。心臓は電気信号が決まった経路を伝わるようになっていきます（図1）。これによって心房と心室が順番に規則正しく収縮し、効率よく血液を前方に運ぶことができます。しかし、心房細動になると心房がきちんと収縮しないことで、血液がきれいに移動せず、よどんでしまいます（図2）。血液がよどむと、血液は少しずつ固まって血の塊（けっせん血栓）を作ることがあります。

血栓は何らかのはずみで血流に乗り、心臓から押

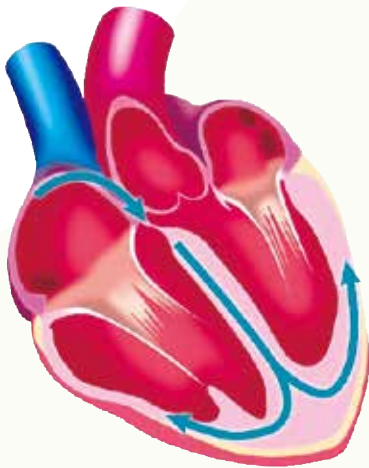


図1

正常な脈の場合、右心房から両方の心室に規則正しく電気信号が伝わり、血液も効率よく前方に運ばれます。

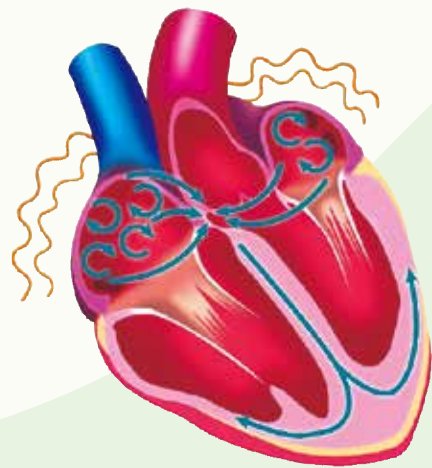


図2

心房細動になると電気信号が心房の中を不規則に回ることによって、心房の動きが細かくふるえたものになります。このため心房内に血液がよどみ、血栓を生じることがあります。

し出されて他の臓器の血管に詰まることがあります（^{そく}塞^{せんしゅう}栓症）。血栓が小さければあまり問題になりませんが、大きなものの場合、臓器の障害を引き起こす原因となります。脳の血管に詰まったものを「心原性脳塞栓症」と呼び、脳梗塞（脳の組織が死んでしまったもの）の種類の中でも最も重症なものになりやすいことがわかっています。つまり、心房細動による脳塞栓症は、麻痺や失語、認知症といった重大な脳機能障害を残す脳梗塞となります。さらに、死亡率も高いことがわかっています。

心原性脳塞栓症の予防のためには、まずそのもととなる血栓を作らせないことが重要です。そのために行われる薬による治療を抗凝固療法といいます。具体的な薬剤としてはプラザキサ・エリキュース・イグザレルト・リクシアナ・ワーファリンなどがあります。日本のガイドラインでは、心房細動を持っていて、なおかつ心不全・高血圧・糖尿病・脳梗塞・75歳以上の年齢のいずれか一つに当てはまる場合にはこのような薬を服用したほうがよいとされています。

心房細動で血液の流れがよどむ心房の中でも、血栓がよりしやすい場所は、左心房の横に袋状に突出した^さ左^{しんじ}心耳と呼ばれる場所です（図3）。前述の抗凝固療法は心原性塞栓症を減らす効果があることはわかっています。しかし、抗凝固療法は、出血したときに血が止まりにくく、

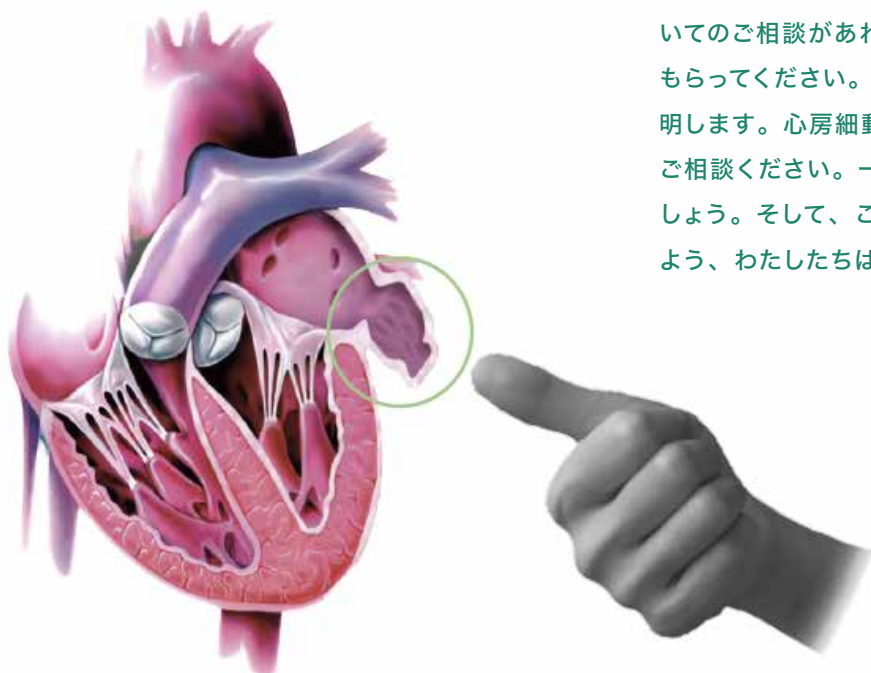


図3
左心耳は左心房の一部で、親指程度の大きさの袋のような構造をしています。

それによって生命が脅かされることもあります。そのため、出血しやすい患者さんが心房細動になった場合、脳梗塞予防の治療ができない時代が続いていました。これを解消するため、血栓が最もできやすい左心耳を塞いでしまおうというのが「左心耳閉鎖術」です。2019年にウォッチマンデバイスと呼ばれる専用の器具を、カテーテルを用いて左心耳の入り口に置く治療法が国内でも認可されました（図4）。当院でも2023年6月よりこの治療を開始しました。尾張西部医療圏では、当院が最初の認可施設となりました。



図4
左心耳閉鎖術に用いるウォッチマンデバイス

現在、左心耳閉鎖術は心房細動の患者さんすべてに行える治療ではありません。出血しやすいとされるいくつかの条件を複数満たす必要があります。左心耳閉鎖術についてのご相談があれば、かかりつけ医から当院を紹介してもらってください。治療の適応や方法について丁寧に説明します。心房細動に関すること全般の心配についても、ご相談ください。一緒に最適な治療方法を探していきましょう。そして、この地域から心原性脳梗塞が少なくなるよう、わたしたちは努力していきます。

部署訪問 臨床工学室血液浄化部門

臨床工学室血液浄化部門の業務は現在22名の臨床工学技士で担っています。医療機器の保守管理とその適切な操作を行うのが主たる仕事ですが、透析患者さんの血管の穿刺（針を刺すこと）も担当しています。

わたしたちは主に血液浄化センターで、腎不全の患者さんに対する血液透析に携わっています。血液透析とは、体外で人工腎臓（ダイアライザ）を使って血液中にたまった老廃物を取り除き、水や電解質のバランスを整える治療法です。透析機器側と多くの血液をやりとりするためにシャントと呼ばれる太い血管をあらかじめ手術で作成します。このシャントは透析患者さんにとって非常に重要なもので、いわば命綱です。臨床工学技士はシャントの穿刺を慎重に行うとともに、常にシャントの状態に気を配り、何かトラブルがあれば遅滞なく適切な対応ができるように心がけています。また、急性肝不全・神経疾患・腎炎に対する血漿交換療法、家族性高コレステロール血症やネフローゼ症候群に対する血漿吸着療法、炎症性腸疾患や閉塞性動脈硬化症に対する血液吸着療法、がんや肝硬変による難治性胸腹水症に対する腹水濾過濃縮再静注法など、さまざまな血液浄化療法に携わっています。



当院で透析を行う患者さんは腎臓以外の病気も持っていることが多く、病態が不安定になりがちです。そのため医師・看護師とともに他職種でカンファレンスを行い、患者さんの状況を見極めながら透析方法を決定しています。また、患者さんが退院後も他の施設で安心して透析を受けられるよう、ソーシャルワーカーやリハビリスタッフと協力して情報を提供しています。

医療機器の進化は日進月歩です。その変化に対応するべく、常に最新の情報を入手し、安全かつ安心な医療を提供できるよう努めています。



がん患者サロン会・勉強会のお知らせ

がん相談支援センターでは、がん患者さんのためのサロン会を3つ開催しています。今回はそのうちのひとつ「がん患者サロン会・勉強会」をご紹介します。

「がん患者サロン会・勉強会」は、がん相談支援センターが主催する参加費無料の会です。「市民公開講座」と「がん患者さんのおしゃべり会」の二部構成で開催しています。第1部は、がんに関する「市民公開講座」で、院内外のどなたでも参加いただけます。第2部は、がん患者さんとそのご家族のみの「おしゃべり会」です。事前予約は不要です。当日、会場まで直接お越しください。



第1部・講演会の様子

今後の開催予定

- 2023年12月15日(金)
「がん予防、がん治療中の食事」 栄養管理室
- 2024年2月9日(金)
「ストレスとの向き合い方」 臨床心理室

問い合わせ / C棟2階 がん相談支援センター

詳しくは
こちら



認定看護師紹介

感染管理・慢性心不全看護

手術を受けた患者さんは、細菌などが侵入しやすく感染のリスクが高い状態にあります。手術部位に感染が起これば治療を遅らせ、重篤な合併症を引き起こす恐れがあります。そのような手術部位に起こる感染を少しでも低減させるため、手術に関連するマニュアルの整備や職員の教育など実施しています。手術室看護師と医師、他職種の方々と協力し、患者さんが安心して手術が受けられる環境を提供できるよう活動しています。



感染管理認定看護師 丸山 新一

心不全とは「心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」で、心臓の病気で死亡する際の最も多い原因です。超高齢化社会を迎える日本では、心不全患者さんは益々増加すると予想されます。慢性心不全看護認定看護師は、心臓に病気を抱える患者さんが生活する上で困っていることはないかを伺い、患者さんが望むこれからの生活をともにイメージし、心不全の悪化や入院を減らすサポートをしていきます。

慢性心不全看護認定看護師 新納 慎也

診療受付時間 午前8時～午前11時15分(全科)

診療開始時間 午前8時40分

休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日) ※ただし、急患の方は救命救急センターで臨時診療

発行者/一宮市立市民病院 院長:志水清和 一宮文京2丁目2番22号 TEL:0586-71-1911 <https://municipal-hospital.ichinomiya.aichi.jp>



敷地内禁煙
NO SMOKING